

御成婚を壽ぐ

奉祝の聲全町を壓す

瑞氣漂ふ縣社々頭の式典 押返しならぬ喜びの雑踏

待ち望まれた筈ある廿六日、平町の空には紫雲たなびき日の御子日和ともいふべき好天氣、官民合同の奉祝祭は深緑の老杉に瑞氣漂ふ縣社々頭を以て午前十時から

平町稀有の賑ひ

白の幔幕や交錯した 大國旗に依つて飾ら

れた街路には各學校生徒の旗の波で押し返しならぬ賑々しさ、其喜びの雑踏の中を百圓だの五十圓だの景氣の好いのし印のビラをひらめかした消防組員主催の手踊屋臺がソレ曳けヤレ曳けエンヤラサア……。斯くして日暮るゝ頃商業學校々庭に參集した

減刑の恩典

平刑務所の 七十五名が

平刑務所に於て今回の御慶事に依り勅令に基いて減刑されたものは在監人員七十五名の内五十五名であるが減刑の日數及び人員は左の如くである

- 廿日未滿減一名、一ヶ月二名、二ヶ月六名、三ヶ月六名、四ヶ月三名、五ヶ月七名、六ヶ月九名、七ヶ月三名、十ヶ月七名、一ヶ月六名、一年三月月二名、一年十月一名、二年半二名

女子教育の向上に資せん

磐女校 聯絡會を起す 發起で 第一回協議會を開き 入學準備試験に關し熱議

縣立磐城高等女學校にては女子教育の向上發展に資せんが爲め石城、双葉兩郡各小學校との聯絡を保ち諸種の事項に就いて相互に考究協議する爲め小學校聯絡協議會を起したが廿八日午後十二時半から同校にて第一回協議會を開き差し當り同校に入學すべき試験準備に關し

哀れな母子の 亭主が歸る

糯米五升、與 平署も同情し

對する準備教育の件を附議し各小學校の意見を徴した

肩先を斬らる

犯人は支柱夫

石城郡磐崎村大字藤原大町本炭礦支柱夫佐賀縣生れ中野與市(三五)は去る二十一日午後九時頃同村雜貨店の

眞性慾問題

性慾の哲學は兎も角もとして、人間の實際生活に於て性慾は最も力強い慾望である。此の慾望が満たされる時滿悦を感じ、充たされない場合には、當然不満焦燥を感ずる、性慾の飢餓は直ちに生命に關する様なことはなく、又訓練によつては、生涯性の滿悦を経験せずに長壽を全うすることも出来る然し特殊の精神的生活を送る例外者を除いては青年壯年の期間を通じて偉大な性慾の壓迫を受けるのが自然の状態である。若し、性の慾求が杜絶され、性の渴望が續く時は、人體の精神作用は可なり強い懊惱苦悶を蒙らねばならぬ、場合がある。其の結果は其の者の全生活に大なる影響を與へる。一時的の例證としては海外留學者のホームシックとなり、慢性の場合では所謂「オールドミス」型が出来上る。自然とあふれ出づる性の力を餘りに不自然に抑制する時精神も身體も其復讐を受けねばならぬ

公人私人

女房あさよの右肩部を出刃庖丁にて斬り浴三週間を要する傷を負はせ平署にて取調中

▲宇野野義彦氏(豫審判事) 昨二十七日午前十一時十八分平驛發で内郷村宮炭礦へ出張したが坑夫那預川忠次の殺人未遂事件檢證の爲めらしい

▲山崎清三氏(平在郷軍人分會長) 軍人分會を代表し奉祝の意を表せんが爲め二十五日東京した

▼滑川一郎氏(警中校長) 青年子弟を教育するには元氣旺盛でなくてはならぬといふので、本年の冬はとう／＼シャツを着ない

常磐片々

町歌がなくて不自由
提灯行列に榮えないデカン
シヨ節や盆唄、丸で俗歌品
評會
是れでは足並みの揃はぬも
無理がない
道理で行列の後半が途中で
行術不明

温い集り

城山青年主催 家族慰安デー

平町城山青年分團主催家族慰安デーは既記の如く廿七日午後一時から湯殿山遙拜處にて開催満場立錫の餘地なき盛況を呈し先づ團長市原陸郎氏が開辭を述べ谷口氏の尺八、上原嬢の三味線滑川警中校長夫人、館野磐

不平受付

町歌が欲しい、御慶事の提灯行列に参加して痛切に感じたのだが平町に町の氣分をあらはした町歌のないのは遺憾である「此處は御國を何百里……」等と歌つて居たが誠に情けない、其道の人に囑託するなり、懸賞募集するなりして町歌を定むるの意はなきか(赤石島)

各處見學

平商三年生の 明日から順次 平商業學校にては本年度卒業生をして明二十九日より左記各處を順次見學せしむる由

- 鹽屋醬油店 吉田伴吉鐵
- 工場 永山酒造店 平區
- 裁判處公判 平郵便局
- 新川町硝子工場 磐城訓
- 官院 磐越銀行 製菓會
- 社 電氣會社 瓦斯タンク
- 平驛 機關庫

(二)

(三)